

木造大空間のバレエスタジオ

鈴木延子バレエスタジオ



パルテノンの壁をうまく生かしてデザインした

高天井の教会をイメージ

鈴木延子バレエスタジオ（東京都、宮尾みどり代表）は、今年3月に東京都大田区仲六郷に木造平屋一部2階建てのバレエスタジオを新設した。延べ床面積68・88平方メートル。宮尾代表は「普通はビルの一室をスタジオに使うケースが多いが、天井の高い稽古場にしたいと考えた。鉄筋コンクリート造で建てようと思ったが、予算的に断念。教会のような建て方をすれば木造でも高い天井の建物ができると思い、教会設計が得意な設計事務所を探して頼んだ」と話す。

天井が高い大空間は、ポラテック（埼玉県越谷市、中内晃次郎社長）オリジナルのパルテノンスカイを採用した。設計を担当したジョイ建築設計事務所は、教会建築の実績が多く、ポラテック木造非住宅の会にも参加、ポラテックと構造面で連携しながら各地で実績を重ねている。

パルテノンスカイは、9100mmの間口の両側に幅455mmのパルテノンの幅狭耐力壁を設け、そこから米松構造用集成材120×450mmの登り梁を架けた。登り梁の棟接合に梁とパルテノンの接合部にはオリ55mmの壁のなかに収まるように、スタジオ部をスッキリと見せる効果がある。

床には、世界の有名なバレエスタジオで採用されている英国ハーレイクインのリノリウムを施工、床下に特殊なクッション材を用いている。「英国からは施工指導に来てもらい、日本の会社が施工で配置、455mmの袖（宮尾代表）という。断熱性に優れ、大空間で気積の大きな建物だが、エアコン2台で十分という。木造省令準耐火構造で軒高6000mm、最高高7944mm、設計はジョイ建築設計事務所、プレカットはポラテックが対応した。出幅4



外観もシックな仕上げ